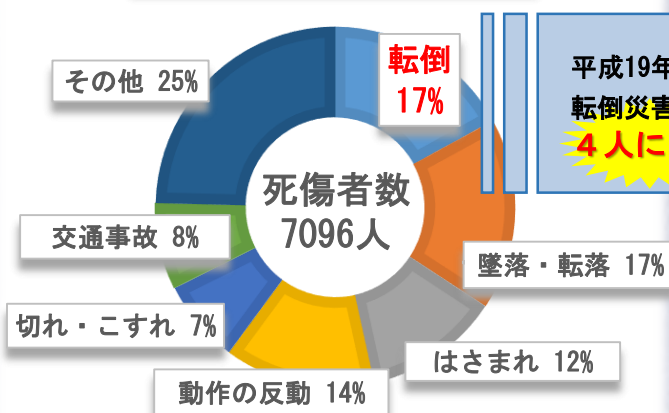


「冬季の転倒防止に集中！！」

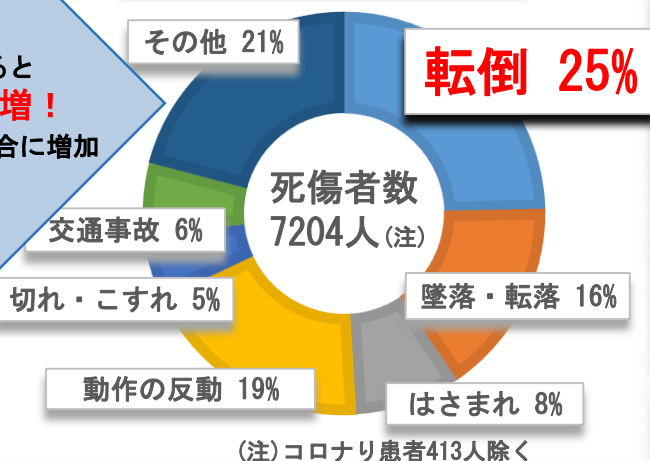
「STOP!転倒災害プロジェクト神奈川2021」 推進中

令和2年に神奈川県内で発生した労働災害（休業4日以上死傷災害）による死傷者数は7,617人、事故の型別に分類すると「転倒」が1,772人で全体の約25%を占めており、近年、増加傾向にあります。

平成19年の事故の型別労働災害発生状況



令和2年の事故の型別労働災害発生状況



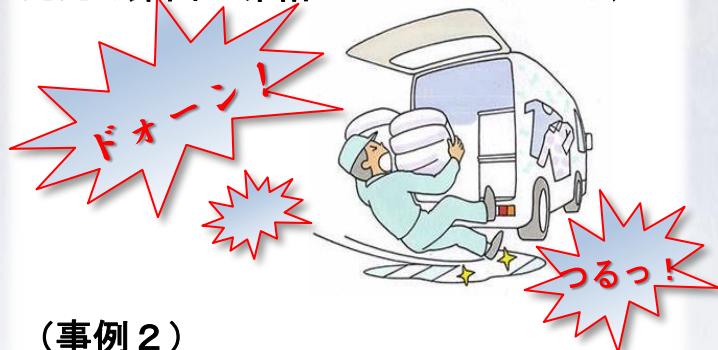
平成19年と比べると
転倒災害は8%増！
4人に1人の割合に増加

さらに、冬季は積雪や凍結による転倒のリスクが高まります。降雪の翌日以後の残雪にも注意してください。

過去の災害事例

(事例1)

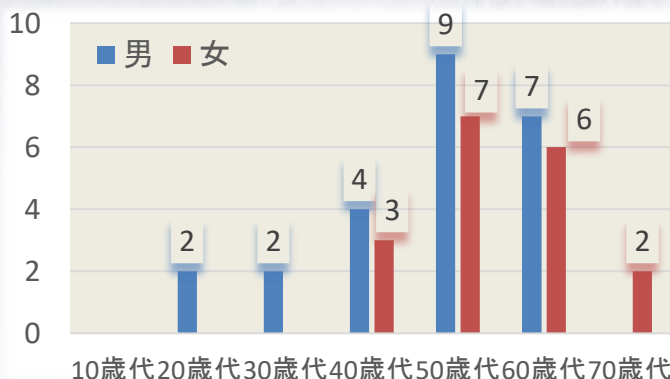
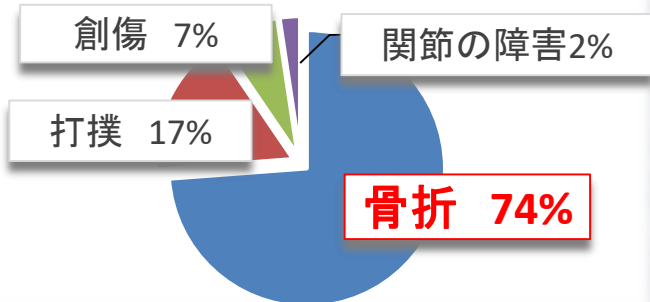
洗濯物の運搬中、凍結した路面に足を滑らせて転倒した。日の出前で薄暗かったため路面の凍結に気づかなかった。



(事例2)

トラックの後部リフトを使った荷降ろし作業中、リフトに足を乗せたときに、靴裏についた雪で滑って転倒した。

凍結、積雪による転倒災害
過去5年間の1～3月 合計42件



2月は、転倒災害防止の重点取組期間です！

神奈川労働局・県下各労働基準監督署



皆さまの職場には似たような危険はありませんか？
転倒災害を防ぐには、次の取り組みが有効です。



- 1 作業場所の整理整頓
- 2 作業場所の清掃
- 3 毎日の運動

以下のチェック項目で事業場を点検してみましょう。



「ころばNICEかながわ体操」

	チェック項目	☑
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った対滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを、標識などで注意喚起していますか	<input type="checkbox"/>
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

冬季に積雪や凍結による転倒災害を防ぎましょう。

①天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し早めの対策をとりましょう。

②時間に余裕をもって歩行、作業を行う

悪天候による交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出勤するようにし、落ち着いて作業をするように心がけましょう。屋外では小さな歩幅で靴の裏全面を地面につけて歩くようにしましょう。

③駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意する

駐車場内や駐車場から職場までの通路に除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口には転倒防止用マットを敷き、照明設備を設けて夜間の照度を確保しましょう。

④職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの教育を行う。

職場内で労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、危険マップなどにより労働者に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物選びや雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。